

## 第 40 回日本手術看護学会年次大会

大会長 佐々木 光隆

平素より日本手術看護学会近畿地区の活動に対して、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、今年開催されます日本手術看護学会年次大会は近畿地区が担当させていただきます。開催日は 2026 年 11 月 21 日（土）・22 日（日）、会場は大阪国際会議場を予定しております。第 40 回の記念大会となる年次大会も、会場で皆様方と共に語り合えるよう、ハイブリッド形式の開催で準備を進めております。開催の詳細につきましては、随時 HP にてお知らせいたしますので、ご確認くださいようお願いいたします。

第 40 回年次大会のテーマは、「周術期看護の継承とシンカーつなぐ技とところで患者に寄り添うー」といたしました。テーマの「シンカ」には、深化、進化、新価、真価の 4 つのシンカを含んでおり、それぞれが周術期看護における重要な側面を象徴しています。「深化」は、医療技術や知識、そして患者一人ひとりへの理解をより深く掘り下げることを意味し、「進化」は、現代の医療がより高次のレベルへ発展していき患者に最適なケアを提供していくことを示しています。さらに「新価」は、新しい医療価値を創造していくことであり、「真価」は、患者に寄り添い、命に向き合う看護の本質的な価値を表しています。このように「シンカ」は、周術期看護を築くための原動力となり、私たちの専門性をさらに高めるものとなります。

超高齢化社会を背景に、周術期医療ではハイリスク患者や、多様な背景を持つ患者を対象に、高難度手術や低侵襲手術が増えています。手術を受ける患者は人生最大の困難に直面していると言っても過言ではなく、悩みや不安など、さまざまな思いを抱えており、こうした中で、患者一人ひとりに寄り添った対応が、これまで以上に重要となっています。そこで私たち手術室看護師は、確かな知見と豊かな実践知を蓄積し、つなぐ技とところで患者に寄り添いアドボケートとして役割を果たし、更に多職種と連携し、円滑な手術進行に寄与しています。私たちが積みあげてきた知見と実践知、そして、つなぐ技とところで患者に寄り添う姿勢は、変わる事のない看護の本質です。この第 40 回という記念すべき大会を通じて看護の本質を見つめ直し、周術期看護の継承とシンカについて考える機会になるよう、近畿地区役員一同、総力をあげて取り組んでいきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。